

# 運転車両課の詰所

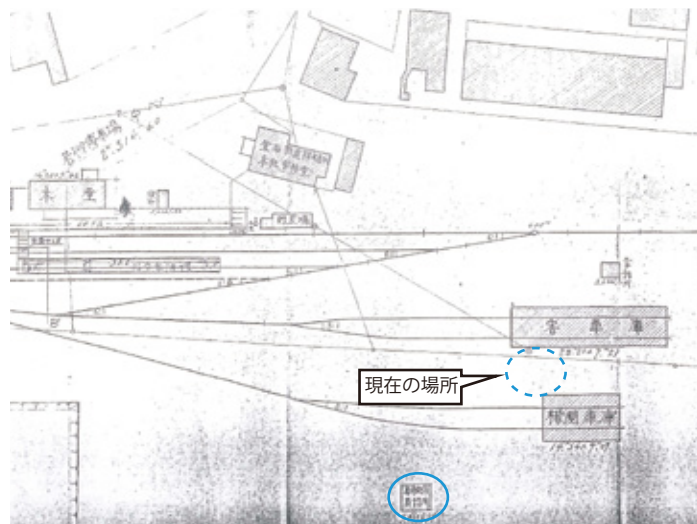


## 運転車両課詰所とは？

主に列車の運転士、そして車両整備の職員が使っていた詰所です。  
 運転士は出勤すると、ここで点呼とアルコールチェックを行い、ブレーキハンドルを持って車両に乗車します。  
 整備の職員は、通常は昼休憩をする場所として利用し、その他では車両を検査した後の帳簿を作成する時にも使っていました。

栗原軌道が開業した1921年(大正10)頃に建てられました。1941年(昭和16)の図面では、機関車庫の北東部にありますが、1950年(昭和25)の古写真では現在の場所にあるため、この期間に移築されたことがわかります。

大きな修繕箇所がなく、建設当時の姿をとどめており、2014年(平成26)7月28日には栗原市指定の有形文化財に登録されました。



1931年の車庫周辺の図面



1950年の機関車庫と詰所を写した写真

## 詰所内の設備について



### ①交番表



車両の出発時間や担当運転士を記した表です。担当ダイヤとその出務時間が記載されており、例えば1ダイヤの人は13時39分に詰所に出勤ということが見て取れます。なお出務時間は、出発時間の数十分前に設定されていたようです。

### ②ロッカー



主に乗務員の方が私物を入れるために使ったロッカーです。元々は現在の若柳駅舎の駐車場辺りに位置していた本社にあり、乗務員用ロッカーとして栗原電鉄時代から使われていました。くりはら田園鉄道時代から現在の詰所に移されたものの、電鉄時代ほど職員がいなかったため、使われていたのは半分ほどだったようです。

### ③表彰状



毎年9月1日の会社記念日に合わせて部門ごとにもらっていた表彰状です。くりでんには、他に電気や保線などの部門もありましたが、運転車両課は毎年のようにもらっていました。その付近にある労働大臣賞は、車庫の環境・設備を評価されて表彰された記念とのことです。

### ④宿直室

ドアを開けると…



翌朝一番の列車に乗る運転士が一晚を過ごすための部屋です。当時は畳張りで押し入れには布団が入っていたため、ここで寝泊まりができました。若柳から離れた地域に住んでいた職員は利用する機会が多く、その他は自宅から直接通っていたとのことです。

## 次回予告

# 100年前に建てられた車庫

【くりでんミュージアムへの問い合わせ】

TEL:0228-24-7961

FAX:0228-24-7962

メールアドレス:info@kuridenpark.com